

〔問7〕活字になった漢字とペンで書く時の漢字とは違う場合があります。そういうことは気にする必要はないのですか。

〔答〕いろいろな漢字を目にすることによって漢字の認識が深まるわけです。いつも同じ大きさや形のものを見てみると、少し違った書き方のものがでてきても読めないということがあります。いろいろな人の書いた、ちょっとした違いのある字を読むのはとてもよいことで、能力を高める練習になります。活字ばかりを見てるのはあまり良くないことで、A先生の書いた漢字でも、B先生の書いたものでも読める、という文字の識別力、認知力を養うことが大切です。ただ最初からいろいろな書き方のものを見せていると混乱してしまいますから、最初は漢字カードのように基本的な一定の活字で教えていって、徐々に他の書き方のものを応用的に読ませるとするのが一般的なやり方です。しかしこの一般的なやり方以外の方法でやったら絶対にいけないか、というところでもありません。多くの先生は「このやり方でやると一番効果がありますよ」というとそれしかやりません。広く教育ということを見ても、一番効果のあるものだけをやっていても駄目で、二番目、三番目、四

番目の方法と、別の形で教えるということも大切です。食べ物の好物でも同じことで、いくら好物でも、毎日ずっと同じ物では見るのも嫌になるようなものです。一番効果のあるものを一番効果的にするためには、二番目三番目のものも必要なのです。最高のものだけでは飽きてしまいますので、たまには無駄なこともしなければいけません。時々たま一番の好物を食べるからとてもおいしいわけですが、よく先生方は一番効果のあるものはと尋ねますが、一番効果のあるものだけではなく、効果のないようなことも時には必要なのです。みなさんは食べ物を食べる時、栄養のあるものだけを食べるでしょうか。たまには胃腸では全く消化されない、もちろん栄養分などなにもない、体を素通りするだけの繊維類のものも食べるでしょう。そういうものが人間の体には必要なのです。教育にも同じことが言えると思います。無駄を恐れてはいけません。有効性ばかりを考えて、なるべく栄養の高いもの、一番おいしいものばかりの教育では、動きのとれないことになってしまいます。栄養過多の子供が増えて、あまり子供にとって良いことではありません。